

三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業

年度経営報告書

2025（令和7）年度

2026年 3月



三浦下水道コンセッション株式会社

目次

1.事業実施状況	1
1-1.事業概要	1
1-2.運営体制	2
1-3.内部統制	5
2.業務実施状況	6
2-1.経営に関する実績	6
(1)環境対策	6
2-2.改築及び増築に関する実績	6
(1) 改築	7
(2) 増築	7
2-3.維持管理に関する実績.....	9
(1) 処理場・ポンプ場の維持管理	9
(2) 管路の維持管理	12
2-4.地域貢献に関する実績.....	13
(1) 地域貢献	13
(2) 広報活動実施計画.....	13
(3) 地元企業の利活用に関する事項	14
2-5.任意事業に関する計画.....	15
(1) 下水道資源を活用した高付加価値作物の生産事業	15
(2) AB-Cross を活用した省エネ水処理技術導入	16
(3)技術実証フィールドの提供	16
3.財務管理.....	17
3-1.財務状況	17
3-2.2025 年度 KPI（財務管理目標値）の状況	17
3-3.KPI（財務管理目標値）の年次推移及び財務状況の分析	18
4.2025 年度 KPI（財務管理目標値以外の目標値）の状況	19
2025 年度発注工事一覧表.....	21

1.事業実施状況

1-1.事業概要

1. 事業名称

三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業

2. 施設の規模等

(1) 1日当たり処理能力

8,050m³

(2) 管路の総延長

59 km

(3) 処理区域

三浦市東部処理区



図 1-1.三浦市公共下水道（東部処理区）事業エリア

1-2.運営体制

運営体制は以下の通り。

(1) 運営管理体制の強化

本事業を開始して3年目となる本年度は、これまでに構築した運営管理体制をより強化させる年度とするため、以下の4点に取り組んだ。

なお、R6年度より技術部を3分掌体制とし、責任分担・役割分担の明確化を図ってきた。当該体制を維持しつつ、今年度の取り組みにあたり、実施体制の更なる強化を行った。まず、2025年6月より統括部長を変更し、前統括部長はプロジェクトディレクターに就任した。本役職は、現統括部長に対して、運営状況に関する確認及び助言を行うとともに、これまでの運営で得られた知見を活かし、事業運営の円滑化と質の向上を図ることを目的としている。また、2025年11月には、組織運営の効率化およびリスク管理の一層の強化を図るため、統括部長補佐を新たに設置した。

① 業務の標準化

作業方法の統一およびマニュアル整備による業務の標準化を推進し、属人化を防止するとともに、安定的なサービスを維持できる仕組みや環境を整えた。モニタリング業務や官積算業務等、管理部・技術部の業務を問わず業務マニュアルの策定・更新を進める取組の一環として、これまで作成を進めてきた管理部業務マニュアルの整備が今年度で概ね完了した。また、技術部においては、工事関連書類を標準様式化し、業務の効率化を図った。

併せて来年度に予定している管理部・技術部を含めた全社的なマニュアル整備に向け、内容構成案や運用方法の整理等を行うなど、準備を進めた。

② 運営管理経験者による新任職員の研修育成

人が入れ替わっても安定した業務の遂行が行えるよう、運営管理経験者による新任職員へのOJTを実施するとともに、定期的に勉強会を開催した。

③ 地元企業等の育成支援として、当社及び株主企業による研修・訓練プログラムの実施

地元企業等に向けた専門業者による酸素欠乏症等についての防止対策に関する研修を10/1に実施した。

④ 遠隔監視システム、デジタル情報基盤などのICT投資による業務の効率化

ICT投資による業務の効率化として、遠隔監視システムの運用、デジタル情報基盤の拡充及び水質自動制御システム導入に向けた取組を実施した。

- ・デジタル情報基盤については、令和6年度工事情報等を登録した。
- ・遠隔監視システムについては、(株)ウォーターエージェンシー（本社）危機管理コントロールセンターにおいて24時間体制で運用している。
- ・水質自動制御システム（水再清ロボット）の運用については、送風機設備を更新した後（令和8年度完了予定）、実運用を開始とする。送風機設備更新後の自動制御に向け、データ解析等の事前準備を進めた。

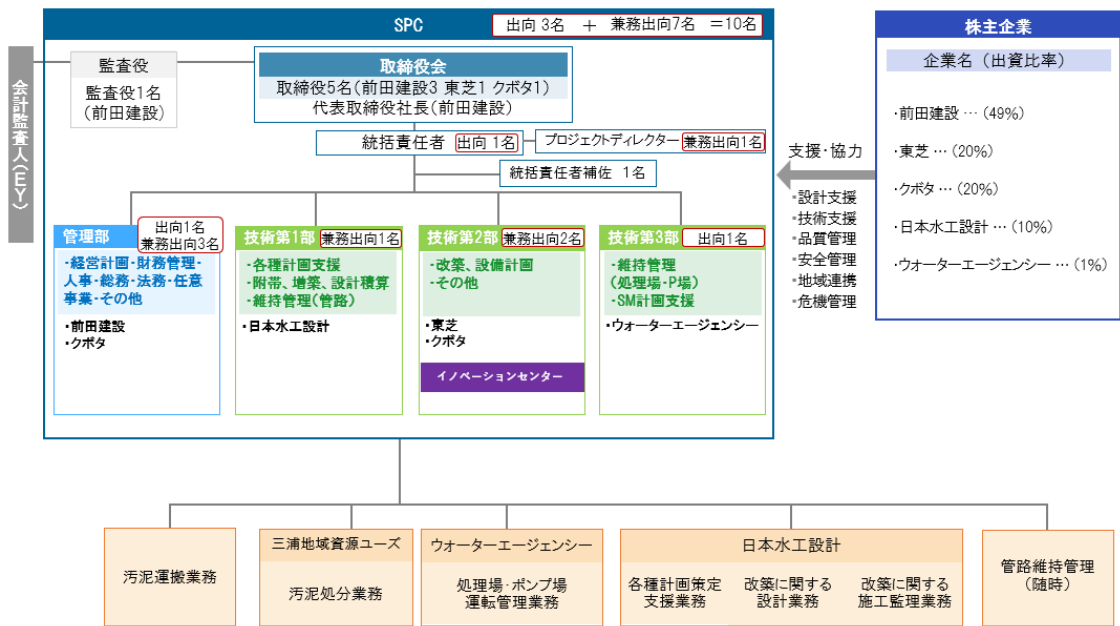


図 1-2.三浦下水道コンセッション株式会社の組織体制

前田建設	東芝	クボタ	日本水工設計	ウォーターエージェンシー
<ul style="list-style-type: none"> コンセッション運営の知見提供 土木・建築の改築計画等の策定支援 事業運営支援 	<ul style="list-style-type: none"> 重電設備企業の知見提供 電気設備等の最適化・改築計画等の策定支援 改築・修繕支援 	<ul style="list-style-type: none"> 水環境設備企業の知見提供 機械設備等の最適化・改築計画等の策定支援 改築・修繕支援 	<ul style="list-style-type: none"> 水関連コンサル企業の知見提供 ストックマネジメント計画等各種計画策定支援 計画策定・設計 	<ul style="list-style-type: none"> 本施設維持管理等の知見提供 運転管理業務、維持管理・修繕計画等策定支援 運転管理

(■ : 役割 ■ : 責任)

図 1-3.株主企業の責任・役割

表 1-4.配置者の業務系経験・技術者要件

業務経験・技術者要件	部署	常駐	兼務
官民連携事業における土木・建築工事、修繕、点検に関する業務経験者	統括責任者	1名	
	技術第1部	—	1名
施設に関する包括維持管理業務(運転管理業務)経験者	技術第3部	1名	—
下水道電気設備技術者	技術第2部	—	1名
下水道機械設備技術者	技術第2部	—	1名
技術士を有する官民連携事業の経験が豊富な技術者	技術第1部	—	1名
SPC 運営管理・地域連携部門の経験者	管理部	—	2名

(2) 災害時・緊急事態発生時の防災体制

巨大地震やその影響による津波、台風や、豪雨等による高波、高潮等を想定し、三浦市 BCP 及び国交省下水道 BCP 策定マニュアルを踏まえ策定した本事業の BCP を、いつ発動させても対応が可能な状態を維持した。

実施を予定していた各種訓練の実施状況は以下のとおりである。

表 1-5.各種訓練実施状況

訓練名称	訓練内容	予定時期	実施日
BCP 教育訓練	講習会等を開催し、BCP の位置付けや内容及び活用方法についての当社職員の理解促進を図るとともに、BCP の見直しに向けた意見収集の場として活用	4月	4/24
安否確認訓練	・当社職員は、携帯電話やメール等により安否を連絡 ・安否確認担当者は、安否確認の回答をとりまとめ	4月	4/25
参集訓練	・地震（震度 6 強）を想定した当社職員の非常参集 ・勤務時間外（早朝 7 時あたり）に、震度 6 強の地震が発生し、市内交通機関が利用できない状況を想定し、当社職員が自宅や通勤途中から徒歩又は自転車により東部浄化センターに参集または移動経路を確認する訓練	9月	9/19
BCP 対応訓練	・株主企業である前田建設の BCP 訓練に参加 ・安否確認担当者は、安否確認の回答をとりまとめ	11月	11/28
図上訓練	・非常時対応計画等の対応手順等、訓練シナリオを事前に提示して、手順通りに対応を行う ・処理場、ポンプ場維持管理業務委託業者と合同訓練を実施	9月	9/25
実地訓練	・東部浄化センター、金田中継センターにおける緊急点検調査及び措置における実地訓練	9月	9/25
	・管路の緊急点検調査及び措置の実地訓練		9/25
情報伝達訓練	・市下水道対策本部と当社災害対策本部との情報伝達訓練 ・構成企業、委託業者との情報伝達訓練	2月	2/17

(3) 委託等の実績

三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業 年度経営計画書（2025（令和7）年度）
 （以下、「2025年度経営計画」とする。）に記載の通り、下記企業に業務委託を行った。

- 運転管理業務委託 : (株)ウォーターエージェンシー
- 計画策定支援委託、設計施工監理業務委託 : 日本水工設計(株)
- 汚泥処分業務委託 : 三浦地域資源ユーズ(株)
- 汚泥収集運搬業務委託 : 田中石材土木(株)
- 管渠緊急清掃委託 : 管清工業(株)

1-3.内部統制

運営開始時に内部統制の基本方針、企業行動憲章を定め、内部通報窓口を設置し、今年度も引き続き運用した。

また、透明性と公正性の高いコーポレートガバナンスと企業倫理に配慮した内部統制の確保に向け、管理部及び技術部（3部門へ分掌）による組織運営を継続した。

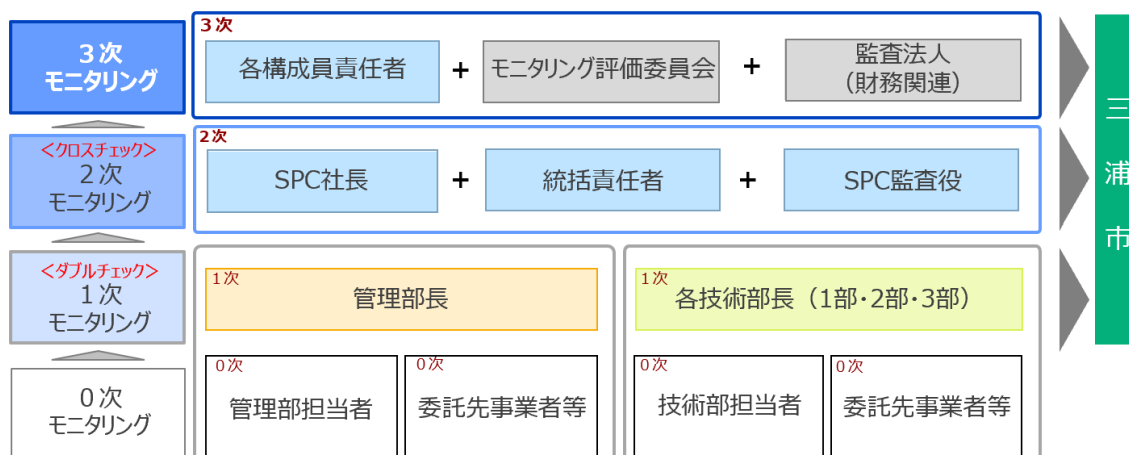


図 1-6.セルフモニタリング体制図

今年度のセルフモニタリング実施状況は以下のとおりである。

表 1-7.セルフモニタリング実施状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
1次モニタリング 業務改善会議（1次）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
2次モニタリング 業務改善会議（2次）	●			●			●			●			
3次モニタリング モニタリング評価委員会					●								外部評価者も加えて実施

会社法、社内規程に基づき株主総会（2回）、取締役会（5回）を開催した。また、会計監査人及び監査役による監査を実施した。

2.業務実施状況

2025 年度経営計画で策定した計画の実施状況は以下の通り。

なお、後述する各節で示す計画と実績の凡例については、以下のとおり。

【凡例】

計画：2025 年度経営計画で策定した計画

実績：2025 年度の実績

2-1.経営に関する実績

(1)環境対策

計画	太陽光発電設備により、東部浄化センターの使用電力のうち約 20%を賅うことを想定している。 計画予測値の精度を実測検証することにより定量的に電力購入量の削減効果をモニタリングする。
実績	4月～3月までの東部浄化センターの消費電力量のうち、太陽光発電設備により約 26%を賅い、計画時に想定していた電力購入量 20%削減を達成した。実測データに基づき削減効果を確認し、定量的なモニタリングを行った。

2-2.改築及び増築に関する実績

本年度完成した改築及び増築工事の件数は下記のとおりである。

- ・改築：2 件 《内訳》 管路 1 件、土木・建築 1 件
- ・増築：3 件 《内訳》 管路 3 件

まず、昨年度から繰越しとなっていた増築工事「金田岩浦地区枝線管渠増築工事に伴う舗装本復旧工事」は、本年度に施工した。次に改築工事のうち機械・電気工事については、本年度の大型案件である反応タンク設備及び受変電設備の更新工事を本年度中に発注し、来年度完了の予定である。管路施設工事については、県発注工事 1 件が先送りとなったため関連工事も先送りとなったが、その他の管路施設工事は計画どおり完了した。最後に増築工事については、発注した 2 件とも計画どおり完了した。

(1)改築

年度計画と実績の対比を以下に説明する。また、今年度発注の工事について、別紙一覧に示す。

表 2-1.機械・電気工事計画と実績の対比

計画		実績
工事対象	備考	
東部浄化センター		
1	No.1-1 散気装置ユニット	本年度に工事を発注した。 本工事は来年度竣工予定。
2	No.1-5 散気装置ユニット	
3	No.1 初期用送風機ユニット	
4	No.2 初期用送風機ユニット	
5	1 系水処理設備コントロールセンタ と補助継電器盤	
6	送風機設置場所変更に伴う監視 制御装置機能増設	
7	受変電ユニット-2	本年度に工事を発注した。 本工事は来年度竣工予定。
8	受変電ユニット-3	
		・反応タンク設備及び関 連の電気設備更新 ・2 か年工事の 1 年目 ・左記 No.1~6 工事を 一括発注 ・受変電設備更新 ・2 か年工事の 1 年目 ・左記 No.7、8 工事を一 括発注

表 2-2.管路施設工事計画と実績の対比

計画		実績	
工事対象	備考		
管路施設			
1	本管	管更生：約 110 m	計画通り完了
2	マンホール (東部浄化センター水処理棟)	蓋交換：12 箇所	計画通り完了
3	マンホール (飯森地区)	蓋交換：4 箇所	本工事は関連工事発注に伴い 発注される工事である。関連工 事の発注が先送りとなったため、 本工事も発注が先送りとなった。

(2)増築

計画	下記 3 件の工事を実施予定 ①令和 6 年度 金田岩浦地区枝線管渠増築工事に伴う舗装本復旧工事 ②令和 7 年度 下宮田馬場地区枝線管きよ増築工事 ③令和 7 年度 上宮田岩井口地区枝線管きよ増築工事 ※①工事は昨年度の繰越工事である。
実績	下記の工事 3 件を完了した ①令和 6 年度 金田岩浦地区枝線管渠増築工事に伴う舗装本復旧工事 ②令和 7 年度 下宮田馬場地区枝線管きよ増築工事 ③令和 7 年度 上宮田岩井口地区枝線管きよ増築工事

着工前	施工完了	管内監視状況

東部処理区本管改築工事 ((1) 改築・表 2-2-1)

着工前	施工中	施工完了

金田岩浦地区枝線管渠増築工事に伴う舗装本復旧工事 ((2) 増築)

着工前	組立マンホール取り付け	配管設置

下宮田馬場地区枝線管きょ増築工事 ((2) 増築)

ポンプ設置完了	組立マンホール取り付け	配管設置

上宮田岩井口地区枝線管きょ増築工事 ((2) 増築)

2-3.維持管理に関する実績

○処理場・ポンプ場

東部浄化センターの処理状況については、放流水質基準、排出汚泥の要求水準ともに 100% 達成することができた。また排出した汚泥の 100%を堆肥化として再利用した。

放流水質基準及び排出汚泥の要求水準は全て達成しているものの、監視のための試験（常時監視 C）については、連休やイベント開催時の高負荷流入による、全窒素、全燐の上昇や降雨後の全燐の上昇が時折みられたため、より柔軟な対応が課題となっている。東部浄化センターの流入水量、脱水ケーキ生産量ともに減少傾向にあるため、今後もその推移を捉え慎重に更新計画を策定する必要がある。

○管路

計画していた点検・調査は概ね予定通り実施したが、取付管調査については計画の見直しにより令和 9 年度に実施を予定している。

住民通報は全て即座に対応した。油脂固着による管路閉塞が発生した箇所があったため高圧洗浄により解消したが、店舗等の排水影響が考えられるため、今後も定期的に点検するとともに、行政指導といった市との連携や適切な排水を心がけるよう注意喚起を行う。

(1)処理場・ポンプ場の維持管理

計画	<p>(1) 体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔監視システム導入により(株)ウォーターエージェンシー（本社）危機管理コントロールセンターでの監視体制を構築することで、設備故障や水質管理等の異常発生時におけるバックアップ体制の強化を図る。 ・凝集剤添加設備設置によりタンクローリー車による薬品の安定供給ならびに薬品保有量を確保することで放流水質（全燐）の安定化を目指す。 <p>(2) 水質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放流水質基準の遵守。 ・水処理設備への計測装置や制御装置を設置したことにより、安定した水質確保と省エネの両立を期す。 <p>(3) 汚泥管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱水ケーキ発生量の軽減、また悪臭等の苦情原因とならないよう、脱水汚泥の含水率を 79%以下とする。 <p>(4) 保守点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル情報基盤を活用し、日々の点検・調査結果や故障・修繕履歴、消耗品保管状況等を集約管理。 ・集約した維持管理データを可視化し、機器の異常傾向など設備状態の見える化を図り、より効果的な改築・修繕計画を立案・実行。
----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・年度経営計画書に記載の保守点検スケジュールどおりに点検。 (5)労働衛生管理 <ul style="list-style-type: none"> ・「労働災害ゼロ」「車両事故ゼロ」を目指し、日常からの安全衛生教育と年 1 回安全パトロールを実施。 ・発注工事において、株主企業による安全パトロールを実施。 (6)エネルギー管理 <ul style="list-style-type: none"> ・水質自動制御システムの導入に伴う計測器の数値をもとに各態窒素（硝酸性窒素・アンモニア性窒素）を把握することで、より最適な運転管理を実施し、電力消費量の削減を目指す。 ・送風機へのスマートメーターの設置により、運転方法ごとの電力使用量を詳細に把握することで省エネルギーにつながる運転管理手法を検証し、消費電力が少ない最適な運転条件を導き出す。
実績	<ul style="list-style-type: none"> (1) 体制 <ul style="list-style-type: none"> ・処理場・ポンプ場の維持管理は(株)ウォーターエージェンシーに委託 ・遠隔監視システムを導入しバックアップ体制を構築 ・凝集剤添加設備運用により良好な放流水質の安定化を図る (2) 水質管理 <ul style="list-style-type: none"> ・放流水質の法定基準の遵守、要求水準について全て達成 ・水質自動制御システム（水再清ロボット）導入、令和 9 年度より自動制御運用開始予定 (3) 汚泥管理 <ul style="list-style-type: none"> ・悪臭等の苦情はなし ・脱水汚泥の含水率は、要求水準の 80%を満たすとともに、汚泥管理目標として設定している 79%以下も達成 (4) 保守点検 <ul style="list-style-type: none"> ・年度経営計画書に記載の保守点検スケジュールどおりに点検を実施 ・昨年度に導入したデジタル情報基盤を活用し、故障・修繕履歴、消耗品保管状況等の集約管理方法を検討 ・維持管理支援ツール（タブレット点検調査機能）による点検を実施し、点検結果を蓄積 ・蓄積したデータを基に、機器の異常傾向など設備状態の見える化を図り、より効果的な修繕計画や改築更新を目指す (5) 労働衛生管理 <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害、車両事故ゼロを達成 ・発注工事において、株主企業による安全パトロールを実施 (6) エネルギー管理 <ul style="list-style-type: none"> ・送風機や污水ポンプ、返送汚泥ポンプ等消費電力の大きな設備について、運

	<p>転方法ごとの電力使用量を詳細に把握し、省エネルギー手法を検討。水処理や汚泥処理に係る多種多様な設備のエネルギー効率を考慮し、消費電力が少ない最適な運転条件の設定により省エネルギー化を実現。</p> <p>・汚水量 1 m³ を処理するために必要な電力量を確認するための電力原単位（買電+太陽光発電）では、令和 5 年度（本事業開始年度）年間当たりと比較し△ 5 %を達成</p>
--	---

表 2-4.水質に関する要求水準達成状況

項目	単位	法令上の制約 基準値 下水道法施行令 水質汚濁防止法	要求水準値 ※1	法定分析 実施回数		要求水準 達成率	法定基準 達成率
				計画	実績		
pH	—	5.8~8.6	6.0~8.0	24	24	100%	100%
BOD	mg/L	15	15.0 以下	24	24	100%	100%
COD	mg/L	25 (20) ※2、3	15.0 以下	24	24	100%	100%
SS	mg/L	40※3	10.0 以下	24	24	100%	100%
全窒素	mg/L	30※3	20.0 以下	24	24	100%	100%
全燐	mg/L	4	2 以下	24	24	100%	100%
大腸菌群数	個/mL	3000	30 以下	24	24	100%	100%
大腸菌数	CFU/mL	800	30 以下 (暫定値)				

※ 1 常時放流水質に求める基準 ※ 2 () 内は、日平均を示す

※ 3 「神奈川県大気汚染防止法第 4 条第 1 項の規定による排出基準及び水質汚濁防止法第 3 条第 3 項の規定による排水基準を定める条例」に基づく、上乘せ基準値を記載

表 2-5.電力原単位の推移

項目	2023 年度	2024 年度	2025 年度
汚水処理水量(m ³ /年)	1,555,333	1,557,386	1,496,603
電力使用量(kWh/年)※1	1,174,900	1,126,052	1,069,685
電力原単位 (kWh/m ³)	0.76	0.72	0.71

※ 1 電力使用量は東部浄化センター運転管理に消費した買電+太陽光発電の合計値とする

(2) 管路の維持管理

年度計画と実績の対比を以下に示す。なお、当初計画に対し過年度の点検調査実績を基に点検箇所の見直しを行っている。また、取付管カメラ調査は計画の見直しの結果実施しなかったため令和9年度に実施を予定している。

表 2-5 管路維持管理計画と実績の対比

維持管理項目			計画 (6月見直し)	実績
管きよ点検				
点検	マンホール蓋点検工		75 基	70 基
	マンホール目視点検工		696 基	695 基
	管口カメラ		292 基	298 基
スクリーニング調査	φ450 以下		6,648 m	6,648 m
	φ500～φ700		—	—
	φ800 以上		—	—
取付管調査	取付管カメラ調査		200 箇所	0 箇所
維持修繕				
	巡視		16.5 km	16.5 km
	伏越し清掃		—	—
	本管修繕		—	—
	マンホール修繕		—	—
	公共ます修繕		—	—

・住民通報は 11 件発生し、全て対応が完了

2-4.地域貢献に関する実績

第1期（令和5・6年度）に引き続き、みうら市民まつりへの出展および地域住民向け施設見学会を実施し、住民の方々に対して下水道事業のPRを行った。また、デザインマンホール蓋の寄附導入に向け、地元企業への営業活動を実施するとともに、任意事業を通じて地元の三浦初声高等学校との連携を図った。これらの取組により、地域住民や学生への下水道事業の周知機会を確保し、地域貢献および広報活動に関する計画を達成することができた。

地元企業の利活用については、改築・増築工事において、令和7年度に発注した6件のうち、土木・建築工事1件、管路施設工事1件の計2件を地元企業へ発注した。この結果、令和7年度の改築・増築工事における地元企業発注率は33.3%となった。

今後は、発注時期の更なる前倒しや発注条件の整理を行うことで、地元企業が参画しやすい環境を整備し、地元企業の一層の利活用を図っていく。

(1)地域貢献

計画	①職員による東部浄化センター周辺の海辺の清掃活動を実施 ②三浦地域で開催されるイベントへ参加し、本事業のPR活動を実施
実績	①5/29に清掃活動を実施 ②11/16に開催されたみうら市民まつりに出展し、輪投げ、水実験などを通じて、市民の方々に下水道に触れていただいた。

(2)広報活動実施計画

計画	①2025年4月～2026年3月までの間に1回以上、地域住民や地元教育機関向けに処理場施設見学会を開催 ②三浦市下水道事業のPRや魅力向上に貢献するため、マンホール蓋を対象としたネーミングライツ導入の検討を開始
実績	①5/26に三浦初声高等学校都市農業科の生徒を対象とした施設見学会を実施。地域住民向けの見学会を2月に予定していたが、降雪予報のため中止。来年度に開催を予定している。 ②デザインマンホール蓋の寄附導入に向けて、地元企業に営業活動を実施中。

(3) 地元企業の利活用に関する事項

※地元企業とは、三浦市内に本社を置く企業を指す。

<p>計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改築・増築工事は、6件が予定されており、以下3件（50%以上）を地元企業へ発注することを目標とする。 ・令和7年度 下宮田飯森地区マンホール蓋交換工事 ・令和7年度 上宮田岩井口地区枝線管きよ増築工事 ・令和7年度 下宮田馬場地区枝線管きよ増築工事 ・維持管理関連修繕工事のうち、本管、マンホール、公共汚水ますの修繕については地元企業へ発注することを目標とする。
<p>実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改築・増築工事について、2025年度経営計画書作成当初は6件を予定していたが、その後2件の工事が追加された。一方で、1件の契約統合および1件の先送りが生じたため、結果として契約件数は計画どおり6件となった。 ・経営計画書作成当初に地元企業への発注を予定していた工事の実績は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ①令和7年度 下宮田飯森地区マンホール蓋交換工事は、関連する県発注の道路補修工事との調整により、当年度は発注を行わず先送りとした。 ②令和7年度 上宮田岩井口地区枝線管きよ増築工事および令和7年度 下宮田馬場地区枝線管きよ増築工事は、地元企業からの応札がなかったため、地元企業への発注には至らなかった。 ・一方、計画策定後に追加された2件の工事については以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ①令和7年度 東部浄化センター水処理棟鉄蓋更新工事 ②令和7年度 東部処理区本管改築工事 いずれも前年度の工事を引き継ぐ形で、地元企業へ発注を行った。 ・この結果、令和7年度の改築・増築工事における地元企業発注実績は、発注工事6件のうち2件となり、地元企業発注率は33.3%となった。 ・今後は、発注時期の前倒しや発注条件の整理を行うことで、地元企業が参画しやすい環境の整備に努め、地元企業の一層の利活用を図っていく。 ・維持管理関連修繕工事について、マンホール舗装修繕を地元企業へ発注した。当該年度は、予防保全の取組や計画的な点検の実施により、維持管理関連修繕工事の発生件数自体が少なく、発注を要する案件の多くが軽微かつ短期間で対応可能な内容であった。その結果、地元企業への新規発注に結びつく工事が限定的となったものである。 ・また、改築・増築工事とは別に、年度内に実施した修繕・小規模工事についても、可能な範囲で地元企業への発注を行った。

2-5.任意事業に関する計画

下水道資源を活用した高付加価値作物生産事業については、地元雇用の栽培従事者とともに2棟の栽培施設での作物栽培に引き続き取り組んだ。神奈川県立三浦初声高等学校とは年間を通じて連携活動を継続して実施した。

2025年6月に、JIWET（日本下水道新技術機構）へ「回転繊維ユニット（RBC）を活用した脱水ろ液負荷低減技術」として提案書を提出した。また、同月には東芝、三浦市、MSCの三者合同で、JIWETによる提案内容のヒアリングに出席した。提案の採択を目指していたが、2026年1月末に本提案がAB-CrossのFS（フィジビリティスタディ）に不採択となったことが判明した。これを受け、AB-Crossに再挑戦できる革新的な代替案が現時点では見込めないことから、次年度以降の再応募は行わない方針とした。

(1)下水道資源を活用した高付加価値作物の生産事業

<p>計画</p>	<p>①下水熱を活用した2棟の栽培施設で、作物の栽培実証実験を行う。栽培や収穫物の加工検討において、三浦初声高等学校都市農業科や地元関係者と連携して取り組む。</p> <p>②事業の第一段階であるフェーズⅠの最終年度（2026年度）に向け、フェーズⅠに実施した栽培実証実験の成果について、社内での検証と学識経験者による評価を行う。検証結果をもとにフェーズⅡ（2027年度）以降の事業方針について検討する。</p>
<p>実績</p>	<p>① 下水熱を活用した作物栽培の実証については、2棟の栽培施設においてイチゴ、コーヒー、コンショウ等の作物を対象に栽培実証実験を実施した。</p> <p>実施にあたっては、市内在住者を雇用し、日常的な栽培支援に従事してもらうとともに、三浦初声高等学校都市農業科と連携し、処理場見学会（5月）、現地作業会（5月・7月・12月・1月）および意見交換会（5月・7月・10月）を開催した。</p> <p>また、地元和菓子店と連携し、栽培したイチゴを使った試作品検討を実施した。</p> <p>② フェーズⅠの成果について、社内関係者および学識経験者による検証・協議を実施した結果、現時点では生産規模の拡大は見込めないと整理し、フェーズⅡ以降の事業方針については次年度に正式決定することとした。</p>

(2) AB-Cross を活用した省エネ水処理技術導入

計画	2025 年度以降の国交省 AB-Cross FS 調査の応募に向け、試験条件と試験装置仕様の検討を進め、2026 年度（計画時点）から RBC（回転繊維ユニット）パイロットプラントの導入検討を進める。採択については 2026 年 1～2 月に発表される。
実績	<ul style="list-style-type: none">・2025 年 6 月に JIWET（日本下水道新技術機構）に「回転繊維ユニット RBC を活用した脱水ろ液負荷低減技術」として提案書を提出した。・同月、東芝・三浦市・MSC の三社で JIWET の提案内容ヒアリングに出席した。・提案採択を期したが、2026 年 1 月末に本提案が AB-Cross の FS に不採択となったことが判明。・AB-Cross に採択されうる革新的なアイデアが別途無いため、次年度以降の再挑戦も断念することとした。

(3) 技術実証フィールドの提供

計画	技術実証フィールドの提供を開始し、下水道分野の先進的技術の保有者に提供することで技術開発や実用化を支援する。
実績	<ul style="list-style-type: none">・HP から応募があった 4 件について受入面談を実施した。・関西オートメーション(株)および日本水工設計(株)の 2 件について実地試験を実施した。いずれの試験においても有用なデータが得られたため、HP に実証結果を掲載した。

3.財務管理

3-1.財務状況

表 3-1.財務状況（計画と実績の比較）

【単位：千円】

科 目	2025年度		
	計画(4月～3月) (A)	実績(4月～3月) (B)	差額(4月～3月) (C) = (B) - (A)
経常収益	213,579	209,867	△3,712
利用料金	194,489	190,767	△3,722
計画支援報酬	19,090	19,090	—
営業外収益	—	10	10
経常費用	197,527	188,690	△8,837
売上原価	158,841	149,936	△8,905
販売費及び一般管理費	32,243	32,527	284
営業外費用	6,443	6,227	△216
経常損益	16,051	21,177	5,126
法人税等	5,112	5,921	809
当期純利益	10,938	15,256	4,318

【経常収益】

- ・利用料金収入について、三浦市の予測を計画値としており、収入が計画より 3,722 千円下回った。
- ・営業外収益について、消費税の還付により計画との差異が発生している。

【経常費用】

- ・売上原価については電力費、汚泥処分費、修繕費の削減により 8,905 万円計画額を下回った。販売費及び一般管理費については計画額と大幅な差異はない。

3-2.2025 年度 KPI（財務管理目標値）の状況

財務管理目標値について、達成状況を報告する。達成率は、各四半期時点での累積値である。

表 3-2.財務管理目標値の達成状況

項目	目的	目標値	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
経常収支比率	収支バランスの管理・持続可能性の確保	100.0%	160.2%	132.5%	138.2%	113.7%
売上高経常利益率	事業運営の収益性確保	5.2%	12.0%	15.7%	17.0%	10.1%
当座比率	短期的な財務健全性・継続性の確保	120.0%	275.7%	236.7%	230.8%	221.5%
自己資本比率	中長期的な財務健全性・継続性の確保	45.0%	56.9%	59.3%	58.9%	59.2%

【2025 年度の内容】

- ・売上高経常利益率、当座比率および自己資本比率については、全て目標値を達成した。
- ・経常収支比率については、算定に用いる算式の整理および定義の見直しを行った結果、2025 年度の各四半期の数値を修正した。修正後の数値に基づく評価においても、当該年度の経常収支比率は概ね良好な水準を維持しており、目標値を達成した。

3-3.KPI（財務管理目標値）の年次推移及び財務状況の分析

本事業開始以降 3 年間（2023～2025 年度）の財務管理目標値について、年次推移の観点から分析を行った。

表 3-3.財務管理目標値の年次推移（2023～2025 年）

項目	目標値	2023年	2024年	2025年
経常収支比率	100.0%	120.6%	121.2%	113.7%
売上高経常利益率※	—	16.6%	11.1%	10.1%
当座比率	120.0%	189.4%	142.3%	221.5%
自己資本比率	45.0%	47.9%	43.1%	59.2%

※毎年度目標値が設定される。（2023年:6.8% 2024年:5.2% 2025年:5.2%）

経常収支比率については、目標値である 100%に対し、2023 年度から 2025 年度までの全ての年度においてこれを上回っており、各年度とも経常収支のバランスは確保されている。本指標については、事業の収支構造をより適切に評価する観点から算定方法の定義を整理しており、本分析は年次比較の整合性を確保するため、同一の定義に基づき再整理した数値を用いている。このため、各年度の経営報告書に記載されている数値とは一部異なっている。

売上高経常利益率については、年度ごとに設定された目標値に対し、3 年間すべてにおいて目標を達成している。年次推移としては 2023 年度以降、段階的な低下傾向が見られるものの、各年度において一定の利益水準は確保されており、事業収益性は維持されている。

当座比率は、全ての年度において目標値である 120%を上回っており、短期的な支払能力については一貫して十分な水準を維持している。

自己資本比率については、三浦市が費用負担する改築工事・増築工事に係る請負業者への支払を一時的に当社が立替払いする契約形態となっていることから、その資金調達を目的とした短期借入の影響により、2024 年度は目標値を下回った。一方、2023 年度および 2025 年度においては目標値を達成しており、全体として自己資本基盤は安定している。

以上を踏まえると、2025 年度においては一部指標において前年度との差異が見られるものの、全ての年度において財務管理目標値は概ね達成されており、流動性および自己資本比率の水準も踏まえると、事業の継続性および安定性の観点からは、総じて健全な財務状況を維持していると評価できる。

4.2025 年度 KPI（財務管理目標値以外の目標値）の状況

財務管理以外の目標値について、報告する。下記の表では、2025 年度末目標値に対する、KPI 達成度を記載している。
今年度の KPI について目標を達成した。

項目	内容	年度末目標値	単位	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間計	KPI達成度
【経営】コンプライアンス									
苦情・要望・相談等対応率	市民等から寄せられる苦情・要望・相談事項の対応率	100%	発生件数	4	2	3	2	11	100%
			対応件数	4	2	3	2	11	
コンプライアンス研修実施率	コンプライアンス研修の年間計画に対するの実施率	100%	計画件数	0	2	0	0	2	100%
			実施件数	0	2	0	0	2	
災害・事故対応訓練実施率	BCP内の訓練計画の計画に対するの実施率	100%	計画件数	2	3	1	1	7	100%
			実施件数	2	3	1	1	7	
BCP	BCP見直し・改定回数	100%	計画件数	1	0	0	0	1	100%
			実施件数	1	0	0	0	1	
【経営】環境対策									
下水道汚泥リサイクル率	汚泥発生量に対して、堆肥やセメント材料としてリサイクルされた割合	100%	汚泥発生量 (単位：t)	335.36	329.14	301.26	308.87	1274.63	100%
			汚泥利用量 (単位：t)	335.36	329.14	301.26	308.87	1274.63	
臭気・振動・騒音発生件数	臭気・振動・騒音に関する苦情の発生件数	0件	発生件数	0	0	0	0	0	0件
【改築】品質管理・安全管理									
改築工事の進捗管理・遅延防止※1	計画に対する年度未完了見込率	100%	達成率	100%	100%	100%	100%		
第三者災害・労働災害発生件数	災害の発生件数	0件	発生件数	0	0	0	0	0	0件
【維持管理】運転管理・保安全管理									
放流水質の要求水準達成率※1	放流水質の要求水準達成率	100%	達成率	100%	100%	100%	100%		
汚泥含水率の要求水準達成率※1	汚泥含水率の要求水準達成率	100%	達成率	100%	100%	100%	100%		
管きょ調査率※2	管きょ点検・調査の実施率 (対計画比)	100%	達成率	9%	13%	39%	100%	100%	100%
電力購入量削減率	東部浄化センターの電力使用量に対する太陽光発電量の割合	20%	削減率	30%	31%	16%	24%	26%	131%
その他									
ICT導入率※3	ICT導入に関する計画に対する実績値	100%	計画	7	0	0	0	7	100%
			実績	7	0	0	0	7	

- ※ 1 年度末時点の累計の値で KPI 達成率を判定せず、四半期毎に KPI 達成率を確認している。
- ※ 2 各四半期の達成率は累計を記載している。
- ※ 3 ICT 導入率についての計画は下記のとおりである。
 - 第 1 四半期…導入済みの①メール、②Web 会議、③～⑥金田 1 号、金田 2 号、上宮田 2 号、上宮田 4 号の計 4 か所のマンホールポンプクラウドサーバー化及び⑦遠隔監視システム導入の計 7 件

2025年度発注工事一覧表

No.	工事名	工事概要	工期	受注者（赤字は地元企業）	事業費（税込） （単位：円）
1	令和7年度 東部浄化センター 反応タンク設備更新工事	東部浄化センター反応タンクにおける機械設備および関連電気設備の更新を行うもの。	R8.3.2~R9.3.12	㈱相互電設	245,157,000
2	令和7年度 東部浄化センター受変電設備更新工事	受変電設備に係る機器の据付および配線工事を行うとともに、これに伴う既設機器および既設配線の撤去工事を実施するものである。	R8.3.2~R9.3.12	英和㈱	285,010,000
3	令和7年度 下宮田馬場地区枝線管きよ増築工事	汚水管路（枝線）を新設するもの。L=64m	R6.8.9~R6.10.31	㈱オガワ	23,372,800
4	令和7年度 上宮田岩井口地区枝線管きよ増築工事	汚水管路（枝線）を新設するもの。L=12m	R7.12.22~R8.3.31	㈱オガワ	5,720,000
5	令和7年度 東部浄化センター水処理棟鉄蓋更新工事	東部浄化センターに設置されている鉄蓋類の経年劣化が著しく進んでいるため、FRPへの更新を実施する。	R7.4.25~R7.5.31	㈱戸部組	1,210,000
6	令和7年度 東部処理区本管改築工事	既設管きよの延長110m区間を対象として、管きよ内面被覆工を実施する。	R7.5.9~R7.7.31	㈱石渡技建	2,816,000